basaltique a propos de celles du Wei Tchang.
(A. Lacroix)
Observations sur les lavea de la Mandchurie et de la Mongolie orientales. (A. Lacroix)
Amicroscopical study of some coals from Szechwan'
S. W. China. (C. Y. Hsieh)

○北海道石炭鑛業會々報　第一七七號　五月
　樺太の鑛業（可野信一）
　釧路地方の炭礦(下)（茂呂泰晴）
△筑豐炭田地質圖(斷面圖及說明書附)長尾巧著　筑豐石炭鑛業組合發行　四月　定價五圓
○日本化學總覽　第二集第三卷第六號　六月
　無機的石油成因說の地化學的批判（高橋純一）
○日本化學總覽　第二集第三卷第七號　七月
　岩漿水に就て（渡邊萬次郎）
○東洋學藝雜誌　第四五卷第五號　五月
　「地球及地殼の剛性並に地震動に關する研究」回顧（志田順）
○東洋學藝雜誌　第四五卷第六號　六月
　火成岩の話(五)（坪井誠太郎）
○東洋學藝雜誌　第四五卷第七號　七月
　マグデブルグに於ける第二十三回獨逸地理學者大會（今村學郎）
○史蹟名勝天然紀念物　第四集第五號　五月
　南紀の奇勝鬼ヶ城と獅子巖（脇水鐵五郎）
○大大阪　第五卷第七號　七月
　建設途上の新國都南京(七)（村上愛治）
○朝鮮　第一六九號　六月
　享保乙卯日本人の朝鮮漂流記（松田甲）
　黃海道の藥水（吉田）
○朝鮮　第一七〇號　七月
　江原道の藥水（吉田）
○臺灣時報　第一一四號　五月
　東洋に於ける石炭の需給關係と臺灣炭田の價値（城崎彦五郎）
○臺灣時報　第一一五號　六月
　本島產業界の大勢（內田）
　南洋に關する書籍（山中樵）
○史蹟名勝天然紀念物　第四集第七號　七月
　富士山麓の化石湖忍野平野と其の湧泉（石原初太郎）

雜報

○愛知地理學會報告

第五回例會　昭和三年九月廿二日、名古屋市立第一高等女學校に於て開催。一、霧島山に就いて　橋本孝平氏。二、北海道の地理的考察　岡田鎭太氏。第六回例會　昭和三年十月廿日　名古屋市立第二高等女學校に於て開催。一、愛知縣に於ける地形と古代民族との關係

伊藤文四郎氏。

第七回例會　昭和三年十二月九日名古屋市立工藝學校に於て開催。一、統計上より見たる東北地方　東海林昌樹氏。二、教具の供覽　耕崎正男氏。三、「名古屋市視察案内の要點如何」なる問題の提出あり、結局橋本、伊藤兩氏を始め當市に精通せる諸氏によつて原案を作製し、他日パンフレットとして發行する旨申合す。（提出者耕崎）。四、未定の儘執行し來つた會則に關する協議に入り、別紙（略）の通り制定し、次回に會員一般の承認を得ることとなりて散會。

第八回例會　昭和四年二月二十三日、名古屋市立工藝學校にて開催。一、愛知縣の製陶原料に就いて　高濱鍵治氏。二、黑部峽谷に就いて　高橋寅藏氏。三、會則の承認役員改選氏名略。

第九回例會　昭和四年四月二十日、名古屋市立第三高等女學校に於て開催。一、對歐無電依佐美送信所に就いて　稻垣健太郎氏。二、琉球に就いて　堀江信房氏。

臨時會　昭和四年五月二十五日、愛知縣測候所に於て機械類を見學し吉川技手の說明あり、終つて愛知中學校に於て吉田測候所長の雲に關する講話あり。

○大分師範の夏期講習會

八月廿二日より廿九日迄八日間、平中教諭の地理學の根本問題、鈴木教諭の器械器具の取扱、村瀨秀二氏の南北兩米の外遊所見の講義がある、當日迄に申込めばよいとの事。

○ロシア國向支那茶

露國向の輸出茶原產地は湖北、安徽、江西、浙江、福建の諸省に亙り、漢口、九江、抗州、寧波、温州、福州等の諸開港場をへて上海に集中せらるゝものなるが、漢口に於て製造せらるゝ綠、紅、磚茶の露國向として特種の品質を有するを除き、他は歐洲向輸出と其品質を同じくする。

露國向輸出茶の經路は既往に於て略々左の如き變遷を經た（一）シベリヤ鐵道開通以前には陸路キヤクタを經由すると同時に海路オデツサに送くられたが、（二）同鐵道開通後は浦鹽經由增加しオデツサ及陸路經由は殆ど絕えた、（三）一九一七年ロシヤ革命の勃發により一時杜絕した支那茶は一九二四年以後再開した、（四）一九二七年々末國民政府の國交斷絕の後は、ソヴイエットの船が入れぬために、外支置籍船のチヤーターによつて浦鹽經由輸入される。

蘇露にては茶業トラストといふ國家經濟機關があつて、世界各國の茶の購買並國內消費者への配給事務を管掌せしめてゐる。一九二七年以前には上海にその支部があつて茶を買ひしめた、今日はセントロソユース全露中央消費組合が代理店として上海及漢口に營業所と漢口磚茶製造所とをもつてゐる

支那の茶が浦鹽に到着すると、直ちに之を倉庫に收容し、茶業トラストとセントロソユースの間の貸借を決濟する。在モスコー茶業トラストの命令を俟つて之を全國の消費地に送くる。

支那茶は何としても露國人の嗜好に適し、到底他國の茶が之に代はることが出來ない、一九二五年には二十七萬四千擔六百萬兩であつたが、一九二七年には三十萬擔、一千萬兩に上つた、一九二八年度も同樣である、種類左の如し

紅茶　五二、三二五擔　紅磚茶　一三一、二六八擔
綠茶　三一、五五一　綠磚茶　八四、九八八
毛茶　七、六二五　合計　三〇七、七五八

但しこれは浦鹽一港のみの輸入額である。

○一九二八年日英貿易の一部

日本品の英國輸入

	一九二七年度		一九二八年度	
豌豆	ハンドレットウエイト 五六、四四四	砂 七六、〇〇五	六三五、二八一	砂 七四、四七七
大豆	一〇、〇五八噸	立方噸 一三、二六五	四一、九五〇	四八、九三五
木材	四六二、七六八	一三七、九六六	五八三、八九九	二〇〇、五二五
繭、生糸屑	九二、九五五封度	三二、六〇〇	六八、五二四	一六、三三二
生糸	五二八、五九九同	六五二、九一四	六九九、七三六	七三一、八〇九
絹糸	一、六二四同	一、六五五	——	——
絹織物	一八、二八、六八二	平方碼 一、四六三、四八二	一三、三〇、二四六	九六〇、九一〇
絹交織	——	三三、二三五	——	二〇、二二六

英國より日本への輸出

	一九二七年度		一九二八年度	
鋼製竿	二、三三噸	一二四、一四六磅	一八、九一六	一九、二九二
鐵鋼板一吋以上	一、四四三	一八、七六〇	八、八〇八	八七、七九四
同一吋以下	三、二三三	一、五四四、八九九	一三八、四三五	一、七七六、四四五
トタン板	九二三	二三、九六〇	——	——
ブリキ	一五五、六六六	三三三、九一〇	二五五、五八一	四八五、六三三
鍊鐵	三、四一七	六三、五三三	五、二五	七九、六一七
鉛	一七二	六、四四〇	一〇四	三、三二四
電氣機械	一、九三七	三八、五七七	一、一八五	一八一、七七九
紡績器械	八、一〇一	六九〇、三三八	二一、六三七	九三〇、〇三八
綿布	三、三三〇、〇〇〇	七三五、〇〇〇	三三、〇〇〇、〇〇〇	六三四、〇〇〇
羊毛トツプ	一九、二七七	八三二、六八九	五、五四四	九一、三六〇
毛糸	三、一〇九、八〇〇	三、一〇九、八〇〇	二、〇四〇、五〇〇	四〇四、七五二
毛織物	一六、一七二	一六、一七二	三三、〇四五	三、〇六九、〇六〇
絹交織	三〇、八二四	三〇、八二四	三五、二七五	二、七三六

勿論この表は日英貿易全部を網羅したものではない、之によつて日英貿易の趨勢を云爲することは出來ない、ことに本邦品中、鰐、蟹鑵詰、大豆油、大豆、樟腦、臺灣茶、薄荷、寒天、ベニヤ板、セルロイド、生地及製品、刷子、木臘の如き本邦からの主要品全部を記してないから不完全である。けれども前表にある限りに於ては繭及生糸屑及絹織物を除き、豌豆、大豆、木材、生糸何れも著しき增加である、絹物主として羽二重は課稅の影響をうけ、且人絹に押されて大に減じた鐵製品及紡績器械は英國より本邦への輸入は增加した。

○獨逸と日本との貿易

一九二八年の獨逸の對日貿易

總額は二億五千二百七十二萬一千麻克であつて、其中輸入三九、七八八、〇〇〇麻克輸出二二、九三三、〇〇〇麻克である之を前年度に比較すると總額に於て約二二%輸入に於て四三%、輸出一九%の增加である。日本よりの輸入が一九二七年に於て前年よりも四六%增加し、一九二八年に於て更に四三%を增加したことは欣ぶべき事實である。

日本よりの輸入は食料及飲料品一、三四九、〇〇〇麻克、原料及半製品二二、二一五、〇〇〇麻克既製品一六、二二四、〇〇〇麻克である。食料及飲料品の中重要なるは植物性油脂であり、次に蟹は六十二萬麻克に達した。原料及半製品の部に於て生糸及屑、工業用魚油、屑絹、建築材、寒天、帽子がある。建築材は主として樟であつて、三千七百六十八噸に達した、寒天は八十萬マークから八十五萬マークに增加し日本の獨壇臺である。其利用範圍の擴大と共に將來有望である。既製品の中に絹織物第一で化學及藥學製品の量も多い、尙又この國に於ても大豆の輸入が激增してゐると同時に豆油はその輸入が減じてきた。

獨逸から日本への輸出は食料及飲料五十萬マーク原料及半製品四千八百萬、既製品一億六千四百四十萬マークである。原料及半製品の輸出增加は硫安の輸入增加による、既製品の中鐵製品、化學及藥學製品、機械類、毛糸、時計樂器精巧品紙及製品、硝子及製品、書籍及樂譜、フヰルム等で書籍樂譜の額は二百八十萬マークに達する。これは前年よりも十一萬マークの增加である。獨逸の本をよむ學者も多いと云ふべしであらう。但し獨逸の輸出總額二百六十億マークに比して、日獨の貿易額は〇、九七%、獨逸から見た日本は、貿易仕向け國として第十七位にあたり、日本からの輸入國としては第四十七位に在るに過ぎない。

○南阿の滿俺鑛開發

南阿金剛石產地として有名なキンバリーの西方六十五哩の地にコープマンスフオンテンといふ小さい町があるその附近にも二三の金剛石鑛區があるが、數年前こゝに非常に豐富な滿俺鑛脈が發見された、この鑛脈は延長四十哩に及ぶ廣大なもので、町の西方五哩の地點から北走するガマガラリツヂと稱する丘脈と、その東方に幅五哩程の平坦な岩石地帶をへだてゝ斷續起伏するクリツプフオンテンリツヂ山中に埋藏される。そこで愈今回この所へ鐵道をつけることになつた。この鐵道に對し新企業の會社は年々二十萬トン乃至三十五萬噸のマンガン鑛を輸出することを約束した、恐らく今日より二年後には南阿聯邦から毎年二、三十萬トンの滿俺が輸出され、更らに五年後には、ナタール州コレンソ其他に建設せらるゝマンガン工場から、數萬噸に上る各種のフエロアロイが輸出せらゝに至るであらう。

○英印間定期航路開始

本年三月から帝國航空會社の手によつて兩國の間に航空路定期開設せられロンドン、カラチ間旅客及郵便物運送に從事してゐる。かくて僅に七日間でロンドンを出發した旅客はアルプスの峻峯を横切り、セノアよりローマをすぎナポリを空中から見下して、靜かな地中海

を渡りカイロをながめてエルサレム、バグダッド何れも史的名勝をへて印度カラチにつく。本航空路の延長五千哩、世界最長の定期航空路である、いづれは將來英帝國を結ぶ航空網中最重要の幹線となるであらう。右空路は之を三區とし二つの陸上機を以て連絡する。尤も當分の間、バーゼル、ゼノアの間は列車聯絡といふことである。

第一區　Argosy使用

第一日　ロンドン、バーゼル(瑞西間)四百八十五哩

バーゼルゼノア間百五十哩、夜行列車聯絡

第二區　ショートカルカッカ、フライングボート使用

第二日　ゼノア、シラクサ(シシリー)七百哩、途中羅馬、オスチア着陸

第三日　シラクサ、トブルック(伊領リビア)間七百五十哩

途中着陸、ナヴァリノ、スダベイ、クリート

第四日　トブルック、アレキサンドリア間三百五十哩

第三區　De Havilard Hercules機使用

第四日　午後　アレキサンドリア、ガザ(パレスタイン)間二百八十哩、途中カイロへ往復

第五日　ガザ、バスラ(イラク)間九百十二哩、途中着陸ラトバア(シリア)バグダッド

第六日　バスラ、ジャスク(波斯)間百八哩、途中着陸プレール、リンゲー(波斯)

第七日　ジャスク、カラチ間(六百哩)　途中着陸地グワダール(バルチスタン)

第一區　ロンドン、バーゼル間四百八十哩に使用される飛行機はアルゴシー發動機三箇を有し、二十六人の旅客をのせる最新式旅客機で外に操縦者三名をのせる。第二區の千八百五十哩の飛行機はジュピター發動機三箇を有し金屬製の機艇で、航中喫烟がゆるされる。操縦者三名の外旅客搭載數十五名。第三區のものは同じく三發動據付、操縦者三名の外旅客十名をのせる。航空時間正味五十二時間、列車による時を加へて六十四時間に過ぎない。PO汽船のロンドン、ボンベイ十五日間に比べて如何に速いことであらうか。三月三十日カラチ發四月一日ロンドン發の第一次飛行以後週一回東西より飛んでゐる。倫敦カラチ間旅客賃金百二十磅、旅客の體重及手荷物合計二百二十五封度までは無料である。但し英印間汽船一等賃金は七十五磅乃至九十五磅である。

猶英本國濠洲の航空路の開設計畫もある上に將來は夜行をやつて、英印間を三日に短縮するといはれてゐる。發着時間は海外經濟事情第二年第七號を見よ。

○瓜哇のタピオカ

一九二八年ジャバに於て生産されたタピオカ澱粉は農園方面で十萬五千噸、一方土人の生産高六萬噸で、輸出十二萬六千噸の多に上つた、生産季節は四月より十月迄の乾燥期を季節とす。沃澱粉乾燥容易なればなり、原料の芋は年中成育すれど、多く四月より十月迄の間に成熟する樣植付す。最盛出廻期は七、八、九月で一年の半分をつくる、生芋より精製粉に至る迄に二つの生産徑路あり。(A)

一工場に於て生芋を磨碎き澱粉の沈澱、乾燥、製粉迄全部操業するものにして概ね歐人經營の大工場は之に屬す、何れも廣大なる竿圃を有し、水道發電所を直營す、(B)日會の小工場にては生芋より粗製澱粉をつくり之を附近の精製工場に賣込む、精粉工場は此土人粉を集め、混合して自己のブランドに適する樣揃磨精製す、全部支那人の經營にして市價により生産高に增減あり。

○中村、松山兩教授槇山助教授歸任　兼て留學中の槇山助教授は六月廿三日飯橋大學の留學を終り北アメリカをへて歸朝された、中村、松山兩教授も亦ジャバの太平洋學術會議に出張され七月一日歸任された、我等は三先生の錦衣からその朗麗な健筆によつて本誌が光彩を添へるであらう事を期待する。

質疑應答

【問】　分岐(Virgation)と連鎖 Kettung)の意義

【答】　分岐(Virgation)とはジュスの「地球相貌論」第一卷に褶曲山脈の東の如く集つて並走するものに與へた名稱である。第四卷に至つてアパラキア山脈に對するアヂロンダツクの關係を前者の主分岐であるに對して後者を强勢されたる分岐とし主分岐の進行する間に起る局部的現象と見る。アルガンは最近の亞細亞構造論において分岐現象を更に研究し自由分岐と閉塞分岐とに分類した。即ち自由分岐においては並走する山脈の間隔は山脈群の中央部において縮小し山脈の端において大となるのに、閉塞分岐において並走する山脈群の兩端が非褶曲性の古い地塊によつて妨げられ各山脈の間隔は中央部で廣く末端部で密集するのである。斯の如き場合には山脈群の走行が直線的である。之に反し自由分岐では山脈群の曲率が中央部で最大である。　尙は Virgation を分岐と譯すことが適當であるの否かは甚だ疑問で或は並走とでも譯すべきものではなからうか。即ち Virgatus は小枝の集つた狀況或は「縞をなす」褶曲山脈即ち並走山脈群の意とすべきではなからうか。

連鎖(Kettung)とはリヒトホーフエンの東亞地貌論に於いて時期を異にして生じた秦嶺と支那山系とが結び付く狀況に附した名稱である。ジュスは地貌論第四卷に於いて同時期に生じた二つの山脈が兩端相接してV形を描く對曲と區別するにリヒトホーフエンの附したこの名稱を採用した。これはデーナが地向斜と共に說明した地向斜性山脈 (Geosyncinal chain) を略して山脈 (Chain) と呼び、これを譯して、山脈 (Kette) と稱するものとは別で二山脈の連結の意で連鎖と譯するよりは正直に結合と譯した方がよい。(H)